

自然観察 NOW

NO : 37

野幌森林公園自然情報

発行：2019年4月18日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



春の花を見つけよう

雪の溶けた森の散策路では、春を待ちわびた植物たちが次々と花を咲かせる季節になりました。昨年の秋から花芽の準備をして雪の中で冬をすごしてきたナニワズの黄色い花や、ミズバショウの花を包む白い仏炎苞（ブツエンホ）が目を引きまします。また、春になってから芽を出して花を咲かせ、種を実らせてから翌年分の栄養もせつせと蓄えて、林床が樹木の葉で薄暗くなる夏には葉を枯らして眠りについてしまうスプリング・エフェメラル『春の妖精』と呼ばれる花も咲いています。フクジュソウ、カタクリ、エゾエンゴサク、ニリンソウ、キクザキイチゲなどがあります。地上生活が約2ヶ月しかない今が旬の花々を観察してみましょう。

フクジュソウ



エゾエンゴサク



ニリンソウ



福寿草と書いて幸福と長寿を意味するとても縁起の良い植物とされ、江戸時代から園芸植物としても親しまれてきました。アイヌの人たちはチライアパッポ（イトウ・花）と呼んで、遡上してくるイトウの漁を始める目印にしていました。黄金色に輝く花は、太陽に向けて熱を集め、熱を求めて集まったハエやハチの仲間によって受粉し、50個ほどある雌しべから、楕円状の集合果を実らせまします。

蝦夷延胡索 ケシ科の多年草で群生していることが多いです。地下15cmくらいに1~2cmの塊茎があり、でんぷんを多く含むので、アイヌの人たちは大事な食料として利用しました。塊茎を乾燥したものが漢方で『延胡索』と呼ばれる生薬です。種子にはエライオソームという白くてアリが好む付属体が付いているので、アリの巣穴に運ばれて種子散布を手伝ってもらいます。

二輪草 フクベラとも呼ばれ、山菜として食べられますが、猛毒のトリカブトの若葉と似ており、混在して生育しているので『白い花が咲いてから採る』とのアイヌの人たちの教えがあります。学名がアネモネで始まる仲間（ニリンソウの仲間やキクザキイチゲの仲間）は花びらのように見える白い部分は花弁状のがく片です。時折、白色と緑色の混じったがく片の、ミドリニリンソウを見つけることがあります。

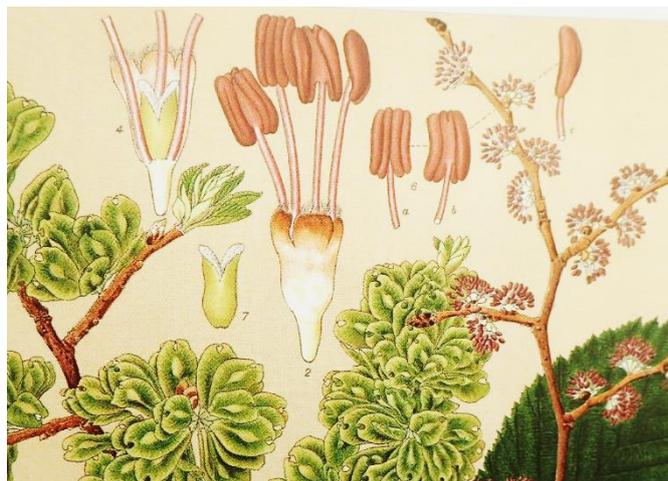
春の樹木の花と言えば、ピンク色に咲く桜の花を思い浮かべるのではないのでしょうか。エゾヤマザクラが華やかに開花する、その前の時期にも、ハンノキの仲間やヤナギの仲間は花を咲かせています。花びらを持たない樹木の花は地味で気が付きにくいのですが、是非！樹上を見上げて、ひっそりと、でも盛大に咲いている花を観察してみてください。

ハルニレ

別名アカダモ、エルムと呼ばれ、ハルニレの大木がたくさんある北海道大学は『エルムの学園』とも呼ばれます。アイヌの人々は『チキサニ』（我ら・こする・木）と呼び、火を産み出す木として敬っていました。

葉の付け根の左右が食い違った形が特徴で、手触りはザラザラしています。

4月に赤紫色の雄しべが目立つ小さな花（図 中央）が丸く球状になって沢山集まって（図 右枝）咲きます。下から見上げると菌類が花盛りみたいに見えます。若葉の芽吹く頃には、若緑色の種子が房状になり（図 左枝）枝に鈴なりの様子が花盛りと勘違いしてしまうほどです。



カツラ

野幌森林公園にはカツラの大木が沢山あります。雌雄異株で4～5月頃、葉の出る前に花を咲かせます。紅紫色の花が咲くとカツラの木全体が紅に染まったように見えます。

花は花弁やがく片をもたず、紅にみえるのは雄しべの葯や、雌しべの柱頭、苞です。

大沢口から森に入って、最初の十字路の角にあるカツラや、その先エゾユズリハコースに進んですぐにある『昭和の森のカツラ』の大木は雌株です。紅の花の他にも、昨年のバナナ状の果実が枝に残っているのが見られます。



雌花



雄花

参考 アイヌ語で自然かんさつ図鑑・森林で遊ぼうシリーズ3おもしろい草花の話 など

※ハルニレとカツラの図は、北海道主要樹木図譜よりお借りしました。

文責：宮津京子

今後の観察会

5月11日（土）	春のありがとう観察会	10:00～14:30	自然ふれあい交流館集合・解散
5月19日（日）	恵庭公園観察会	10:00～12:30	恵庭公園中央駐車場集合・解散
5月24日（金）	藻岩山登山観察会	10:00～14:30	慈啓会病院前登山口集合・解散